

匠が語る 地元の家

地元根付いた建築会社だからこそ、建てられる家がある。
それは、地域によって異なる気候風土や素材を活かした家。
この建築会社は、いったいどんな家を作っているのか。
地元で活躍する匠に、家づくりのこだわりを語ってもらった

鈴木紗耶香 = 構成・取材・文 和田真典 = 撮影

vol.18

ライクスホーム
八重樫清史氏
【建築部 本店店長】

やえがし・きよし ●1973年生まれ、東京都青梅市出身。20代のごく、サイパン島で旅行会社に勤務後、オーストラリアに滞在。その後、ヨーロッパを周遊する中で建築に魅了され、帰国後、25歳で建築会社に就職。2013年、弟とライクスホームを設立し、現在に至る。

MADE IN SAITAMA





海外で培ったバイタリティーで スピーディーかつ柔軟に お客さまの要望に寄り添う

柔和で人懐っこい笑顔が印象的な八重樫さん、その経歴はユニークだ。家でホームステイを受け入れる家庭で育ったため、英語が得意になり、自然と海外に興味があった。旅行会社に就職すると、サイパン島勤務になり、念願の海外生活をスタートさせた。「島内観光を担当しました。接客仕事はすごく楽しかったです」。2年間働いた後、ワーキングホリデーを利用してオーストラリアへ。日本人向けのツアーガイドをしつつ、中古車の売買に携わるようになった。「人が面倒臭がる手続きも覚えるのが楽しくて全部一人でやりました」

3年後、ためたお金でヨーロッパを3カ月ほど周遊した。これが八重樫さんにとって大きな転機となった。スペインのガウディ建築、ギリシャのサントリーニ島やミコノス島の美しい街並み……。各国で出会った建築に魅了され、建築業界へ転身の決意を固めたそう。「自分にできる規模で建築に携わってみたいと思ったんです」

帰国して建築会社で経験を積んだ後、2013年に兄弟でライクスホームを立ち上げた。当初から県産のむく材を豊富に扱うことで、自然派志向の人に定評を得てきた。

八重樫さんの弟が不動産部門を、八重樫さん自身が住宅建築部門を担当する。土地探しから家づくりまでをトータルでサポートしてくれるうえ、土地の仲介手数料が無料になるのも魅力的だ。

八重樫さんは、電話対応からホームページ作成、見積もりまで、接客や集客にかかわる仕事を全て自らこなす。器用なだけでなく、対応の速さにも目を見張る。お客さまとの打ち合わせ後、すぐに仮図面を引き、当日中に見積もりを出すのだそう。「見積もりを待っている間に土地が売れてしまうことも珍しくないのです、お客さまがタイミングを逃してしまわないように、できるだけスピーディーに対応することを心掛けています」

さらに同社の特筆すべき点は、施主支給での建材の持ち込みや、「壁の漆喰を自分で塗りたい」などのDIYの希望にも対応するところだ。「一般的にそういったリクエストは受け入れられにくいのですが、うちでは歓迎しています」

八重樫さんの柔軟でスピーディーな仕事ぶりは、海外で自ら道を切り開き、幾多の困難を越えてきたことにも関係するのだろう。

「お客さまのさまざまな希望と、現実の問題を擦り合わせて、家づくりに落とし込むのが得意なんです。この界隈の地価は高く、十分な広さや採光が取りにくい条件も多いので、2階リビングや吹抜け、屋根裏部屋、勾配天井など、1cmも無駄にしない提案をしていきたいですね」そう語る瞳には、確かな自信が表れていた。

こぼれ話



海外旅行が大好きな八重樫さん。現在は自業中だが、例年、年末は休みを取って家族と一緒に旅行を楽しんでいる。直近ではカンボジアやアメリカへ。アメリカでは空港からレンタカーを借りて、約二週間かけてセドナまでドライブを楽しんだそう。

DATA

社名
ライクスホーム

住所
川口市芝 6306-3

電話
0120-914-017

HP
<https://likes-h.net/>

匠を深掘る、5つの質問

- Q1. 座右の銘や大切にしている言葉は？
A. 一日一善
- Q2. このエリアでお気に入りの場所を教えてください
A. 川口市安行の「小林もみじ園」。紅葉の季節は本当にきれいです
- Q3. 子どものころの夢と今の夢を教えてください
A. 大家さん。10年前に実現したのですが、これからも物件を増やし続けていきたいです
- Q4. 趣味を教えてください
A. 海外旅行、スピアフィッシング、ラフティング、カヌー
- Q5. 今後、営業しているエリアで実現していきたいビジョンは？
A. 価格は変えずに住宅の質を上げていきたい。そのために、しっかり仕事をしてくれる職人さんを大切に、手厚い待遇を心掛けていきたいと思えます